

ALPHA 同窓会

校長 × 卒業生の対談企画

卒業生によるみどり・ひと・まちづくり

中瀬 勲

鳥賀 陽百合



プロフィール

大阪府高槻市生まれ。大阪府立大学大学院農学研究所修士課程修了。農学博士（九州大学）。大阪府立大学助教授、カリフォルニア大学客員研究員を経て、平成25年4月より兵庫県立人と自然の博物館長。平成29年4月より兵庫県立淡路景観園芸学校校長兼校長。兵庫県民生活審議会委員、劇団波の森協会理事などとともに、阪神・淡路大震災復興のまちづくりやNPO等にかかわる。兵庫県功労者表彰（教育功労）、第5回さわやか街づくり賞まちづくり活動部門などを受賞。著書に『アメリカン・ランドスケープの思想』『みどりのコミュニティ・デザイン』『パークマネジメント』などがある。



プロフィール

同志社大学文学部文化史学科卒業。兵庫県立淡路景観園芸学校景観園芸専門課程卒業。カナダのナイアガラ園芸学校に留学して園芸やデザインなどについて学ぶ。イギリスのキューガーデン付属ウェークハースト庭園にてインターンシップを経験。これまで25カ国を旅し、世界の庭園を見てまわる。ガーデンデザインや庭のイベントプロデュースのほか、大阪や東京、名古屋など全国各地で庭園講座やガーデニング教室などを開催。また、京都では日本庭園ツアーを主催している。2017年3月ニューヨークで開催されたジャパンウィークでは石庭をプロデュース。著書に『一度は行ってみたい京都「絶景庭園」』（光文社知恵の森文庫）がある。

淡路景観園芸学校専門課程4期  
ランドスケープデザイナー

植物も含めた園芸全般を  
暮らしに取り込んで  
もらいたい

中瀬 幅広くご活躍をされていますね。

鳥賀 ありがとうございます。

日本庭園に詰まっている日本人の価値観や美意識を伝えられればという思いで、庭園案内を始めました。庭園紹介の連載をまとめた本『一度は行ってみたい京都「絶景庭園」』も出版させていただいてからは、庭園案内や庭園講座のお仕事が増えています。デザインの仕事も増え、今年の3月には、ニューヨークで開催されたジャパンウィークで石庭を造らせていただきました。今は、「サビの匂いがない庭」をコンセプトとした保育園の園庭のデザインを手掛けています。毎月、京都や鎌倉、エテ文化センターなどで、寄せ植え教室もしています。

いろいろさせていただいています。植物も含めた園芸全般を皆さんの暮らしに取り込んでもらうことができればいいなと思っています。

文学部 × 造園・  
ネットワークの強み

中瀬 素晴らしいですね。ニューヨークでお庭を作られた時は、ご苦労されたのではないですか。私も海外での作庭経験がありますが、

庭石を探すのに随分と苦労をしました。確か、同志社大学文学部のご出身ですよ。海外と日本の庭、そして歴史文学という視点を持つておられるところが、鳥賀陽さんの強みだと思いますよ。

鳥賀 ありがとうございます。

庭園案内でも歴史と植物の両方を知っていることは、確かに強みになっています。淡路で植物について学び、留学制度でナイアガラ園芸学校に行けたことで、自分の道が広がりました。ナイアガラで出会った人たちからは、とても刺激を受け、今も交流が続いています。

中瀬 鳥賀陽さんのもう一つの強みは、ネットワークの広さですね。

鳥賀 人のつながりは、ありがたいです。違う分野の方ですが、銅板作家さんに鉢づくりのワークショップをしてもらい、その鉢で寄せ植えをつくる教室をしました。中瀬 それ！ 異業種とのコラボレーションが大事です。音楽や芸術、植物以外の事がきっかけになって広がっていくとおもしろい。

園芸がちがう分野に  
飛び火していくおもしろさ

鳥賀 園芸が違う分野に飛び火していくおもしろさがありますよね。失敗してもいい、亜流になってもいいから、いろんな分野の人とつながって、楽しいことができるといいなと思っています。

中瀬 そうそう！ 言葉が古いですが、アヴァンギャルドにどんどん新しい事をやってくたさると良いと思います。淡路景観園芸学校は新しい学校なので、新しい事にチャレンジしやすいところが強みです。

鳥賀 新しいことはドキドキもするんですけど、攻めるべきだなと思っています。

チャレンジして  
アヴァンギャルドなものを

中瀬 これからチャレンジされたことは何ですか。

鳥賀 中瀬先生のように恒常的な庭を海外で作ってみたいですね。「作る」、「作ったお庭を使った企画」、「メンテナンスでどう見せるのか」をパッケージにして提案していきたいです。

中瀬 是非、海外へ出て新しい庭をつくってください！海外のネットワークもあるので紹介しますよ。鳥賀 ありがとうございます！

中瀬 今日は、楽しかったです。在校生や先生にも、聞いてもらえると良かったですね。次からは公開対談にして、同窓会で本にまとめてはどうですか。

編集後記

対談を快く引き受けてくださった中瀬先生と鳥賀陽さんに、この場を借りてお礼申し上げます。お二人の対談は多岐にわたり、とてもわくわくする時間でした。今回ご紹介しきれない内容も多くあり、いつかフルバージョンをご紹介せねばと思っています。

# JAPAN WEEK 2017

2017年3月8日～10日

烏賀陽さんが造られたニューヨークグランドセントラル内の石庭  
庭のテーマは古事記の「大八島」

